

2020年度

# こどもニュース

9・28 発行

皆様のお祈りの下、2020年度年長児dayキャンプが2日間実現できました。

新型コロナウィルス感染症の心配は絶えず私たちの日常から離すことは出来ませんが、子ども達の日常には希望がいっぱい！を今回も教えられました。

思いが叶っても叶わなくても、子どもが思ったことをそのままに表現できる。たとえ人と意見が違っても結論が出なくとも友達同士の中で表現すること自体が大事なこと、心地よいことをいっぱい体験できた年長さんたちでした。

にじ組さん、年少さん、年中さんが降園した後、オリエンテーションから始まったdayキャンプ。自分たちの作ったテントで食べたお弁当、午後は幼稚園内で思いっきり好きな遊びをして、2日とも「にりん草さん」の夕食は美味し過ぎて売り切れに。お待ちかねの肝試しも子ども達の意見からの実現ですが、これにもちゃんとしたねらいが・・・だから準備は手抜き無し。担任と園長にも知らされず、担当スタッフが子ども達の意見からのねらい達成のため最高のものを！！「怖すぎた～」「肝試しの案は出さなきゃよかったです。」「年長もうやだ～」と一瞬は弱気になった子ども達でしたが、益々団結力アップで2日目に臨みました。園周辺の自然の中に出かけ、縄跳びや鬼ごっこ、走りっこやかくれんぼ、お仕事中の造園の方が薬草園の温室を開けて見事に実ったバナナを見せてくださいました。キャンプファイアーや花火も遊びも安全も、卒園生社会人のボランティアに助けられ、本当に素晴らしい時間を過ごさせていただきました。

全てを守り整えてくださった神様に感謝のお祈りをしてお別れしました。私たちは何よりも神さまの恵みやいろいろな方の見えない力に支えられ見守られていることに、改めて気づき感謝した2日間でした。おうちの方のご理解にも感謝です。

さて、こんな年長さんたちの準備や活動を、日々目の当たりにしてきた年下の子ども達はどのように見ていたのでしょうか。それもまた繋がりゆく今後への楽しみであります。益々頼もしくなっていく年長さんへの期待も大きく・・・

馬渕のりこ

## =DAYキャンプ=

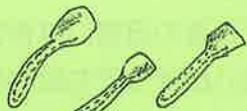
9月18日・19日の2日間をかけて、年長児のDAYキャンプが無事に終わりました。たくさんの方に支えられました。また祈りの中で過ごすことのできた2日間に感謝です。

さて、この2日間何をして、どんなふうに過ごしたのか興味ありますよね。まず、このキャンプは年長児が、“生活を自分で組み立てる”ということが目的になっています。ですので、幼稚園で過ごす長い時間、何をしたいか、そして何が必要かを子ども達と考え、意見や思いを聞きました。そこで決まったのが、“肝だめし”と“ファイヤー”“縄跳び”“リズム”です。しかし遊びのことばかりではなく、生活に必要な衣食住についても日頃のことを思い出しながら、考えました。園庭に立っているテントもその一つです。キャンプ当日はテントでお弁当をいただきました。またそのお弁当箱をはじめ、キャンプの間は食事道具を自分で洗うこともしました。そういうえば、

「家でも自分の洗ってるよ」「私は運ぶだけ」こんなお喋りも聞こえてきました。また家でも機会があるといいですね。

食事道具といえば、今回は白石先生に教えてもらい、アルミの板をかなづちで叩いてスプーンを作りました。一つひとつ形の違う味のあるスプーンが出来上がっています。

このスプーンでカレーを食べた事を迎えにきた保護者の方に「変なスプーンでカレー食べたら、美味しいって美味しいってお代わりしちゃった」と話している子もいました。



キャンプ1日目の夕方には、リズム＆ゲーム大会を行いました。

「いつもはどうしてるの？」と保育者から聞かれると丁寧に教えていたり、「見て、見て！」とできるようになった事を誇らしげに披露したり、繰り返し楽しんできたリズムをクラスの先生に見てもらおうとはりきる年長さんがとても可愛かったです。そんな中、2人の保育者も側面に挑戦！「うまくできないから～」と躊躇する子ども達にとっても大きな刺激になりました。更に「みんなが見ると恥ずかしいからできない、でもやりたい」そんな気持ちを打ち明けてくれた子もいました。それを聞いた年長さんたちは、みんな手で目を隠しスタンバイ。その姿を確認し、リズムをすることができました。その姿に年長さん達からは大きな拍手がおこりました。（あれ？目隠ししてたはずなのに…年長さん、みんな優しい～）と思った瞬間です。



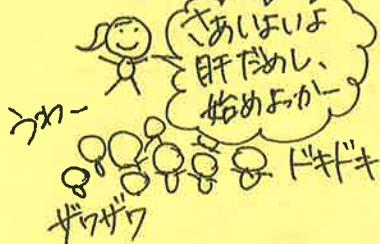
キャンプ2日目は、大学の薬草園まで、縄跳びを持って出かけました。

舗装された道で走り跳びに挑戦したり、大縄の入り込みや大縄の中で前回し跳びをしてみたり、今までとは少し違う環境で縄跳びを楽しみました。また真っ直ぐに伸びた道を使って直線でのかけっこをする子多くいました。保育者やボランティアのお兄さん達に果敢に挑む子ども達、かっこよかったです♥



# 今、明るくなる「肝だめし」の全て

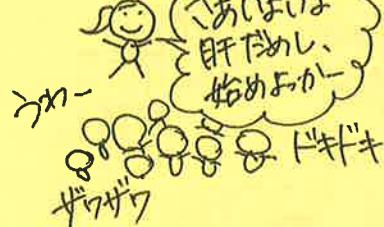
夕暮れ時 年後6時すぎ...



キニヘ...



ガラッ



ターンッ!

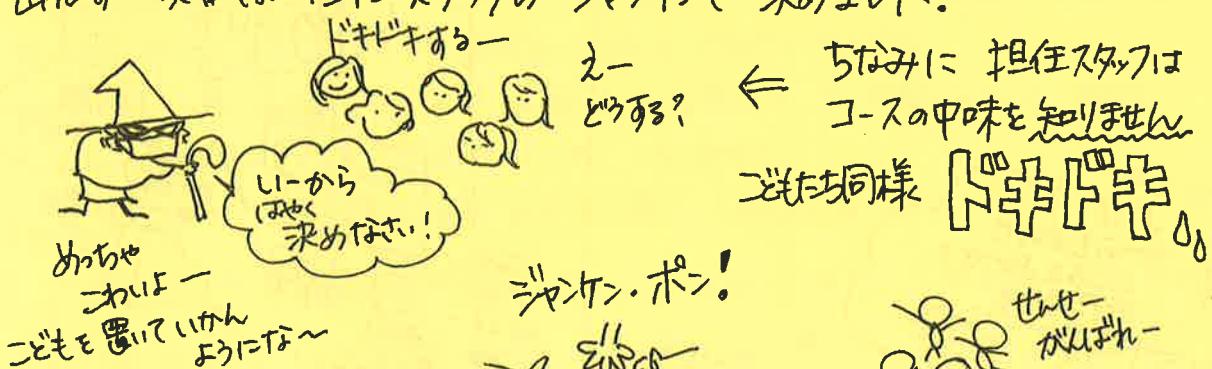


こどもたちは魔女のおばあさんから  
あるドッパンをえられました。

このキモだめしはみんなで「わから」をあわせねばならん。  
あるいはともだちや、あるいはせんせいをあいてきてはいかんぞ!  
ホールドでここをひとつにしてとおりぬけ  
トンネルのさじにまたからをもって  
かえてくるのです。いいな!



出発する順番は担任スタッフのジャンケンで決めました。

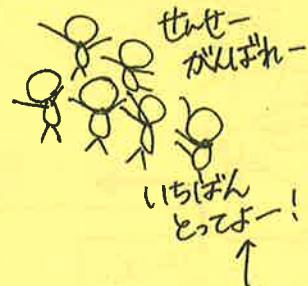


ちなみに 担任スタッフは  
コースの中味を知りません  
こども同様 ドギギドギギ

ジャンケン・ポン!

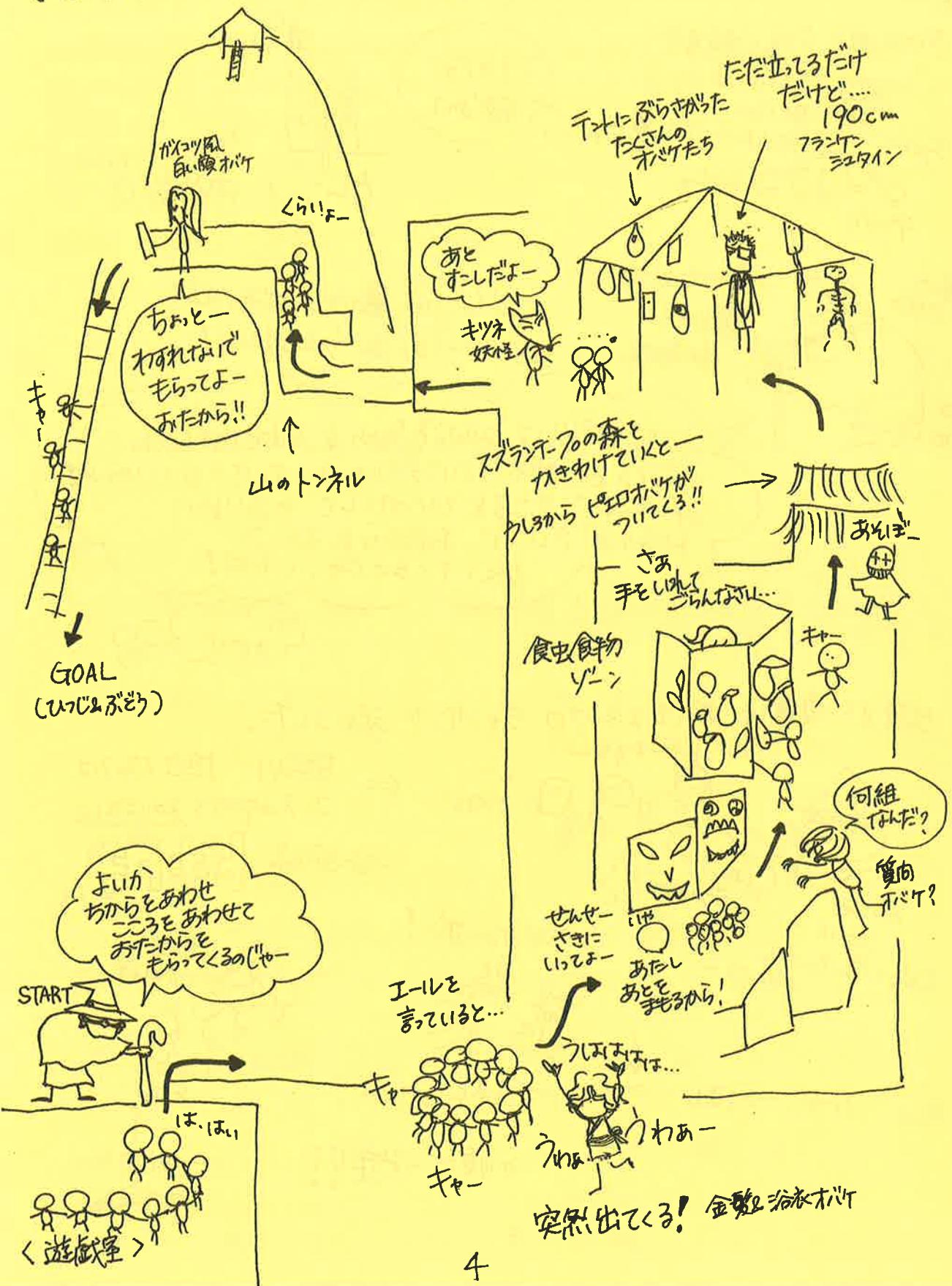
ひつじ→ほし→くに→はと→ぶどう

の順で決定!!



このあたりは  
手塚裕...

## 〈きもだめレコース紹介!〉



ひつじ

あなたからをもううのも  
忘れ、あはげに呼び  
もどされてまいに…

会場にいふことから  
自分たちも何日も前から  
オペレを作つて準備  
ステンレスが何重にもつらわれてゐる  
小部屋を通りとキ...

විජ්‍ය

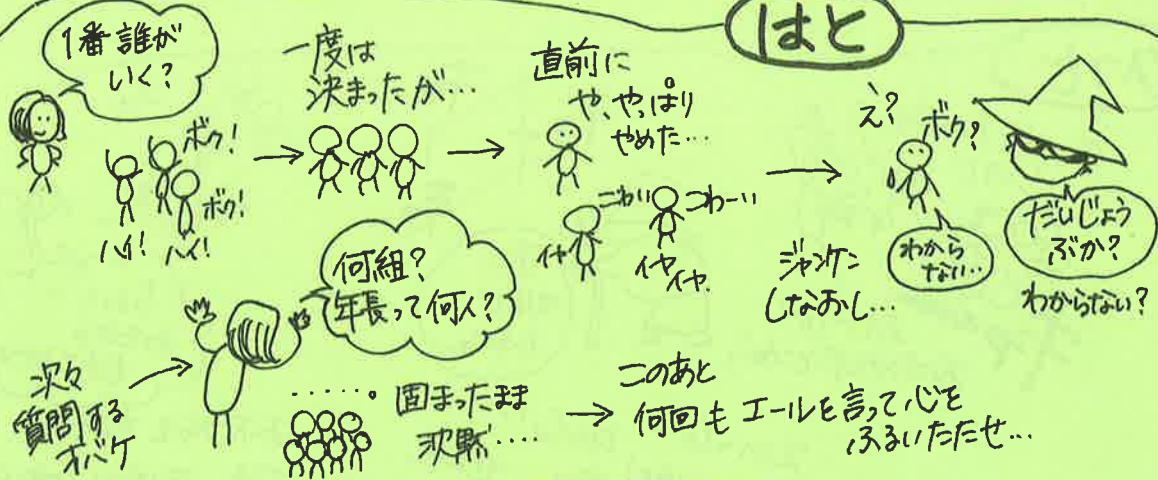
最初のひつじの叫び声がすごく  
次の次の（ほしが 静かだ）ので「声が出ないほどこわいのか？」と  
ますます こわくたまつにぐぐぐ…

A cartoon illustration of a character with a speech bubble containing the text "ああ! 泣くと".

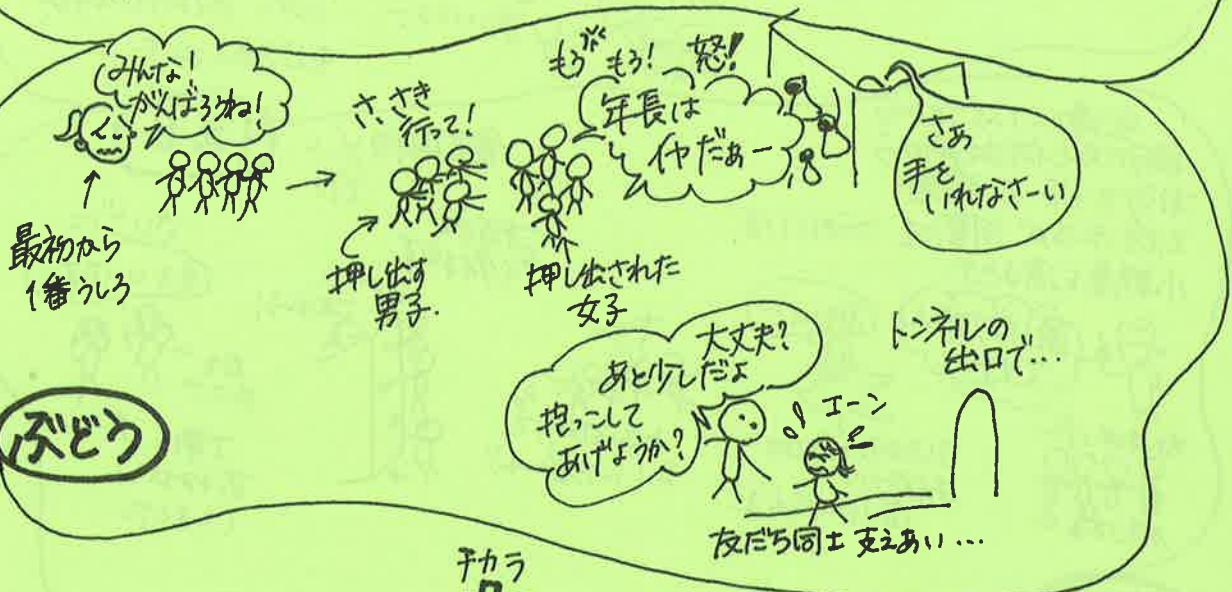
## 男子も大泣きの やりぐみ

A hand-drawn diagram illustrating communication between Japanese and English speakers. At the top left, a speech bubble contains the Japanese phrase "トマトを貰う" (Tomato o torau). To its right, another speech bubble contains the English phrase "I got a tomato". Below these, a large oval encloses the Japanese sentence "あとはトンネルだよ" (Ato wa tonneru da yo), with a small drawing of a tunnel entrance. To the right of this oval, a speech bubble contains the English response "It's a tunnel". At the bottom left, a speech bubble contains the Japanese sentence "この向の細かい所は見ておいたがも" (Kono mukou no otsukai no所 wa mitete oita ga mo). To its right, another speech bubble contains the English sentence "I saw the detailed parts". In the center, a stick figure is shown with a thought bubble containing the Japanese phrase "日本語で話す人" (Nihongo de hanasu hito). To the right of this figure, a speech bubble contains the English phrase "Japanese speaker". A curved arrow points from the Japanese speaker towards the English speaker. At the bottom right, a speech bubble contains the Japanese sentence "英語で話す人" (Eigo de hanasu hito), with a small drawing of a speech bubble. To its left, another speech bubble contains the English sentence "English speaker".

## はと



## ひどく



そして……みんなが **力** をあわせてもらってきた おたからは  
なんどう なんと **力** 卷き物。広げてみると **力** 字が書いてあります。  
ところが！ 全クラス帰ってきて  
その5枚の巻き物を集め、あわせてみると

ゆうきあるねんちゅうさん みんなどうって  
ゴーレ おめでとう、さあ つぎは うれしくらい  
七からをあわせ がんばれば ようちゃんのおばけより

というおばけからのメッセージが書かれていたのです。

## 5歳児とは... 友だちとやったことが「自信と誇りになる時期」

これは 7月の年長児懇談会でもお話をさせていたことがあります。  
「友だちと協同する力を育みたい」という願いを持って保育してきた私達は  
ニども運の「肝だめしをしたい」と思って保育のねらいを重ね、準備して  
きました。

「ちょと怖くても友だちがいたら大丈夫！」

「友だちと一緒にならがんばれる！」

「怖がっている友だち(先生？)も一緒にに行にはどうしたらいいの？」

今回の「肝だめし」が「友だちとやったことが自信と誇りになる」体験に  
つながるといい、その自信と誇りと次の取り組みにつなげてしまい、  
それが二枚の巻き物がおかされて初めて浮かびあがるメッセージ=  
これが「私達の願い」でした。



## 行事は「その日」だけのものではない—流れを大切に

実は何日も前から自分たちでもオバケを作っていたこともあります。

肝だめしの翌日、キャンプ。2日目には、大泣きしていく子も「今度は自分が驚かす  
方になりたい！」と熱心に新作オバケを作っていました。

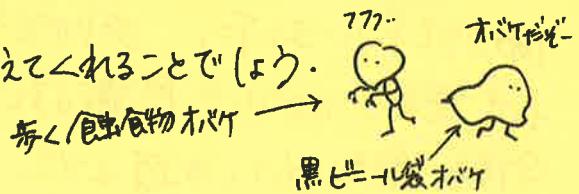
また「ちょときて」と残っている仕掛けに保育者と呼んで驚かしたり、自分が  
オバケに変身したりと肝だめしひがみが大流行。

こうして怖かった経験も遊びの中で消化し表現しながら力に変えていくのです。

このように行事が「その日」だけのイベントで終わるのではなく、「その日」における  
過程を大切にし、また当日以降、遊びの中に脈々と続いていくこと、  
そういう「流れ」がとても大事だと考えています。

ニども達は自分の「体験」を遊びの中で再現し再構築しながら、しっかりと  
「経験」として積み重ねていくのです。

それを今度は年中さん、年少さんに伝えてくれることでしょう。



# <キャンփファイアーア花火の巻>

キャンփファイアーアに先立ち、夕様の時を持ちました。

山田謙先生よりヨハネ福音書8章12節「キリストは世の光である」(ニフリ乙の  
お話を伺い、どんな時にも私たちを照らし導いて下さるイエス様について考えました)。

その後はいよいよキャンփファイアーア!

でもトキの火も小さくアリ困っていました

すると



火の女王

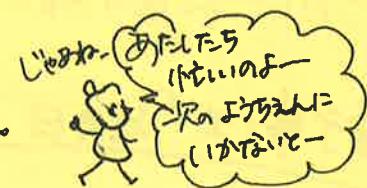
そのくらいが登場!

なんと秘密のトーチを~~籠~~に投げ入れ、謎の大  
ブルース! エクスペクト・ハトローハ! をとむると

あっとい間に炎があがったのでした!

火の女王様、けいさん、ありがとうございます。一緒に踊りました。  
でも「忙しい」とうですぐは行ってしまいました。

ニギモトロヒとは ロックマイソウル リアチャハチャチャ  
キャンփだれ! などと歌って踊って汗ダクになりました。

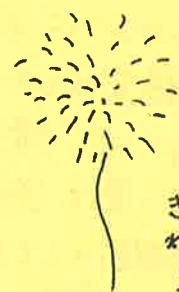


花火大会ではなんとパフ・リカ~~火~~が登場!

ダンスにあわせて後ろで次々に花火に火がつけられるーという演出。

長ーいナイアガラにみせられ、10連続以上の迫力ある

打ちあげ花火に大喜びの大盛況でした。



今回もこれらの企画にボランティアの卒園生の方々が  
協力して下さいました。ありがとうございました。

長年続く「つながり」に感謝するとともに、このような関わりが

今後も継承されていきたいように。又、いつも繋がりたい、と思える園で  
あります。どうぞよろしくお願いします。 -8-

きんぐ  
わふー  
♪♪♪

DAYキャンプ後、肝だめしで「もう年長イヤだ～！」と叫んだ子が「今度は私たちが先達を脅かす肝だめしがしたい」と話したと聞きました。年長DAYキャンプは終わりましたが、子ども達の中では、まだまだ続いているようです。

例年とは違う形のキャンプに今まで持っていたイメージから想像できない！という方も多かったと思います。また「コロナだからできないよね」「残念」「かわいそう」そんな言葉も実際、聞こえてきました。しかし子ども達は、そんなこと全く思っていませんし、考へてもいません。子ども達は、“できることは何かな？”“やってみたいことができるかな”そんなふうに考えて過ごしています。子ども達から学ぶことが多いです。

今できる事を大切にしながら生きている子ども達には、育つ力が充分にあると確信しています。これからもそんな年長さんと残り半年の幼稚園生活を満喫していきたいです。

